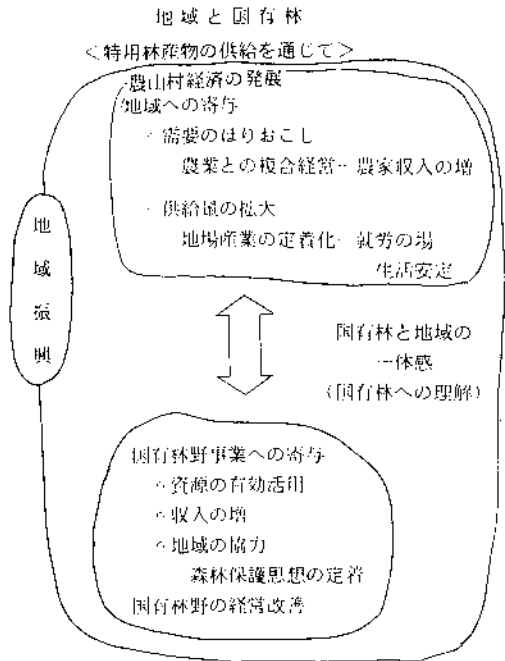


おわりに

国有林野事業の改善が、各方面から、大きな期待と、注目をあつめている今、一瞥のそれは小さなものであっても、各々が、それぞれの地域性を生かし、密間の連携をはかることから、大きな成果が得られるであろう。

森林資源の枯渇が憂慮されているおり立派な森林を育てることとあわせ、限りある資源を、長期にわたり、安定供給を図るとともに、地域のニーズに積極的に応えてまいりたい。

表-4 まとめ



日常における安全活動

上田・大庭担当区事務所 篠原 秀夫
 西牧 公一
 坂口 列弘
 関口 三治郎
 三井 昇
 小林 一雄
 柳澤 今朝喜
 堀内 童男

はじめに

担当区では、昭和47年から13万8千時間の無災害記録を続けて来たが、昨年6月1件の公務災害

の発生を見てしまった。

この反省の中で私達は、もう二度と災害は起きないぞと見う引締めた気持を持つと共に、これを契機として、従来から担当区において積み重ねて来た安全活動を再度見直し、安全衛生活動の向上に努めているところである。

今回は、これらの経緯の中で大庭担当区主任以下7名が取組んで来た安全衛生活動について発表し皆さんのご指導とご助言を載せ、よりよい安全衛生活動に努めて行きたいと考えるものである。

I 担当区部の作業環境

大庭作業班が受持つ部内は、大庭、長、横道、の3担当区部内にまたがるが、主体は大庭担当区部内である。

この大庭担当区部内は、上田盆地を流れる千曲川の東台地、貞田町の傍陽川兩岸にまたがる、傍陽山固有林である。

標高850mから1500m位置しており、この標高差からも急傾斜地の多い地況であることがわかる。

年間降水量は850mm前後と極めて少く事業上の利点大であるが、年平均気温10℃前後と低く湿度が少ない関係上、冬期の寒気は特に厳しく、急傾斜地とあいまって作業環境は決して良いとは言えない。

事業は地拵えから除伐までの造林事業全般と収穫調査である。

II 職員構成

1 担当区部の職員

事務所 2名 作業班 基職 6名

2 年齢

最年長 58才 最年少 41才

平均年齢 48才

職員構成は上記のとおりで、経験も豊富であり、技術的にもかなり高度の技術を有しているが、高齢化してきていることはいなめず、総じて無理のきかない年代に入っているのが現状である。

III 安全衛生管理体制

総括安全管理者
署 長

主任安全管理者
次 長

安全管理者
課 長

安全管理補助者
主 任

安全推進員
定内補助員

基職班長

安全当番
基職1週間交替

緑十字チーフ
基職1年交替

1 安全推進員

班長が安全推進員を兼任することとなるため、作業指示安全指示等が統一化され、事業上も効果的である。

2 緑十字チーフ

安全懇談会等の司会を行い、安全対策の掘りおこし及びその取纏め等を行う。

3 安全当番

安全日誌・体操の号令等の役を行う。

なお安全推進員である班長については、全員の総意により、継続しその任についているところであるが、緑十字チーフ及び安全当番については、安全意識高揚の上からも全員の交替制で行っているものである。

IV 昭和56年度安全衛生管理計画

| 月別 | 重点目標 | 具体的実施事項 |
|----|------------|---|
| 4月 | 1. 基本動作の厳守 | 作業 地拵 植付 除伐 足場の確保 上下作業の禁止 落石転石の注意 |
| 5月 | 2. 交通災害の防止 | 運転は安全運転 助手はより適切な誘導を 同乗者は常に協力体制を |
| | 3. 健康管理の推進 | 病気の早期発見早期治療 一日二回の体操及びぶらさがりうがいの励行 |
| | 4. 明るい職場作り | 安全懇談会の有効活用 相手の身になっての相互注意 相手の立場持場の相互理解 |
| 6月 | 1. 基本動作の厳守 | 作業 除伐 下刈 収穫調査 作業間隔の確認 手元足元の確認 刃物の取扱い注意 |
| 7月 | 2. 交通災害の防止 | 余裕のある運転 より適切な誘導 雨期に伴う崩落等の注意 |

| 月別 | 重点目標 | 具体的実施事項 |
|-----|---------------|--|
| | 3. 健康管理の推進 | 一日二回の体操とぶらさがり 夏バテ予防と早目の就寝 生水を飲まない |
| | 4. 明るい職場作り | 安全懇談会の有効活用 困ったことのなんでも相談 相手の身になって聞く |
| 8月 | 1. 基本動作 | 作業 除伐 接近作業の注意 落石転石の注意 頭上確認 マムシ・ハチ・雷に注意 |
| 9月 | 2. 交通災害の防止 | 余裕のある運転 より適切な誘導 公私共にスピードひかえめに |
| 10月 | 3. 健康管理の推進 | 一日二回の体操とぶらさがり 夏バテ予防と早目の就寝 生水を飲まない |
| | 4. 明るい職場作り | 安全懇談会の有効活用 |
| | 1. 基本動作の厳守 | 作業 地拵 除伐 つる切 測定 足場の確保 上下作業の禁止 落石転石の注意 |
| 11月 | 2. 交通災害の防止 | 余裕のある運転 より適切な誘導 冬期に係る道路状況の把握 |
| 12月 | 3. 健康管理の推進 | 体操、ぶらさがりの励行 休息時終業時に身体の汗を拭く うがいの励行 |

| 月別 | 重点目標 | 具体的実施事項 |
|----|---------------|---|
| | 4. 明るい職場作り | 安全懇談会の有効活用 旅行等を通し融和を図る 困ったことのなんでも相談 |
| 1月 | 1. 基本動作の厳守 | 作業 除伐 合図の徹底 足場の確認 刃物の取扱い注意 スベリ災害の防止 通勤路の整備 着ぶくれによる災害防止 |
| 2月 | 2. 交通災害の防止 | 運転は先ず安全運転を 助手はより適切な誘導を 同乗者は常に協力体制を 砂スコップの常時携帯 道路状況によりチェンの完全装着 林道等の路肩注意 |
| 3月 | 3. 健康管理の推進 | 体操ぶらさがりの励行 うがいの励行 休息終業時には身体の汗を拭く カイロ等による身体の保温 |
| | 4. 明るい職場作り | 安全懇談会の有効活用 困ったことのなんでも相談 |

なおこの安全衛生管理計画に基づき、各月の安全スリーポイントが決められてゆくこととなる。

V 安全に対する具体的取組み

- 1 六でナン運動と朝のミーティング
 - 六でナン運動
 - 月 整備した機械器具に間違いナン
 - 火 完全に保護具をつければ心配ナン
 - 水 手元足元確認すればケガはナン
 - 木 作業基準守る職場に事故はナン
 - 金 作業間隔を保った仕事に災害ナン

上 環境の整備で職場に不安ナシ

この穴でナシ運動は、昭和47年から続けているものであり、担当区の安全活動の基調となっているものである。

毎朝、この穴でナシ運動の看板を取替える事により安全意識の高揚を図ると共に、朝のミーティングを行っている。

朝のミーティングは、その日の作業地、作業内容及び天候等も考慮し、よりよい作業方法とするため、安全推進員である班長が中心となり5分程度全員で話し合い、その上で作業にかかり安全の確保に努めている。

2 一声運動

人間の注意力には限界があると言われており、この注意力の散漫する時の不安全状態が、不安全行為を招き災害の発生につながると考えられることから、比較的災害多発時間帯と見られる11時と午後4時に注意喚起のため、班長の合図により「気をつけてやりましょう」などの掛声で不安全状態の排除に努めているものである。

勿論、災害はどの時間帯に発生するものか、はかり知る事の出来るものではないが、災害の事前防止の一手段である事を信じ実践しているものである。

3 安全懇談会

安全懇談会は、作業地、作業種の変る都度行なっており、緑十字チーフが中心となり、安全管理補助者及び安全推進員が助言をする形で、地況、作業方法等について話し合いをし作業の安全を期しているものである。

又各職員共、全林班の地況等をよく知っており、作業経験等も豊富である事から安全懇談会のほとんどは、朝のミーティングなみに行なっているのが通常である。

なお、日頃思っている事、考えている事などの話し合いの場としてもおり、安全衛生及び明るい職場作り等への第一歩としているものである。

4 健康管理の推進

仕事をする上で、先ず健康でなければならぬ事は言うまでもない事である。

健康であることが仕事に対する意欲や能率の向上にもつながり、又それだけ不安全状態の除去につながって行くと言う考え方から、先ず病気の早期発見、早期治療を主眼に、健康診断等の積極的な受診と共に、担当区では次の事を継続実践し健康管理の維持推進に務めているところである。

ア 夏まけ防止の味噌汁作り

7月から9月の間、炎天下の下刈作業等の体力消耗に備え休憩時間を利用し、栄養補強、塩分補充等を考えた味噌汁作りを行なっている。

イ 風邪予防のうがい

冬期の風邪予防の一環として、作業終了時等にうがいを実践している。

ウ 鉄棒のぶらさがり

腰痛予防の一環として、現地において1日2回の体操と共に、鉄棒のぶらさがりを励行している。

エ 作業衣のヌレ防止

冬期の身体の保温から、作業衣の要所にスキー用のハラフインを塗り、作業衣のヌレを防止しているが簡便かつ効果的である。

オ カイロの使用

風邪予防の上からも、カイロを使用し身体の保温に努めているが、着ぶくれ災害防止の上でも効果を上げていていると思っている。

5. 明るい職場作り

作業の安全は先ずチームワークであり相互理解に根ざす協調であると考える。

私達は安全懇談会や昼食時等の中での話し合いと共にレクリエーション等を通じ、明るい職場作りに努め、次の事を心掛けている。

ア 困った事のなんでも相談と相手の身になって聞く

融和を主眼として皆んなで話合えるものは安全懇談会等の中で、個々のもの等は、主眼又は友人に話すようにし、気持の上での不安全状態をなくすよう心掛けている。

イ レクリエーションの活用

全員の話し合いで年1回2泊3日程度の旅行を行ない協調とチームワークの醸成に心掛けている。

又本年度は家族ぐるみの融和を考え夫婦同伴の忘年会を行ない好評を得た

ウ 山の神

毎月17日を目途に1日の作業終了後、事務所に設けられている祭壇に全員で安全祈願を行なう。又この日は自前の野菜等の持寄りですトレス解消と明日の活力へのカンバイを行なっているが、時には安全点検等で現場へ来た管理者の方にも参加を願い、安全指導と共に打ちとけた話しの中で、署と現場との一体感を深めている。

6 交通災害の防止

担当区にミニバスが導入されたのは56年5月であり、ミニバス運転の経験も少ない上、長野～真田線の交通量は非常に多く、特に朝晩のラッシュは市街地なみでありかつ制限速度オーバーの車がほとんどである。

この状況から私達は安全運転は勿論のこと、防衛運転に重点を置くよう話し合い、運転者は防衛運転の徹底に努め、助手は運転者と共に追い越し、右左折又夏期冬期の道路状況等の中での適確な誘導を、同乗者は安全運転に対する理解と協力を、を基本に交通災害を起さないように又交通災害にあわないように、全員で交通安全の確保を図って来たものである。

今後に向けても、運転者は安全運転を、助手はより適確な誘導を、同乗者は常に協力体制を、の合言葉を交通安全モットーとして交通安全の確保に努めて行くつもりである。

7 労働災害発生の反省とその対策

担当区において、56年6月収穫事業の測量中、測量に支障となるかん木の伐開中ナクによる災害(全治7日)の発生をみた。

この反省として、当日は午前中の雨が1時頃にあがり、午後3時頃から非常にむしあつい、疲労度の強い午後となっていたが、このような状態の時にこそ注意喚起が必要であった事、かん木

を伐るのにナタのフリがやや大き過ぎた事等を、主任以下全員で反省をし合い、又この反省の中で、もう一度ナタ使用の作業について見直しと検討を加えることとしたものである。

その結果、次のことについて作業仕様を変えることとした。

ア 測量時のかん木伐開にはナタ鎌使用。

従来からこの作業にはナタを多く使用して来たところであるが、これをナタ鎌使用とする。

ナタに比較し柄が40cm程長いだけ安全度が高い。

イ 収穫調査木の目印に白墨を使用。

従来からナタにより調査木胸高部を剥皮し目印として来たところであるがナタ使用をやめ白墨の目印とした。

以前他所においてもこの剥皮作業の際枯枝がとび、目の災害が発生した事例もあったと聞かすが、いつれにしても、歩行中の刃物使用は危険度の高いものであり、この危険がなくなりかつ作業も楽になるなど効率的になった。

又剥皮の際、幹まで傷をつける事もあり、この傷を業者の方は嫌うものであるが、これも必然的になくなる事となった。

お わ り に

はじめに述べたように、私達は2度と災害を起さないように、災害の後追いとならない先取りの安全活動とするため、常に危険が隣合せに存在することを認識し、全員で今日までの安全に努力して来たところであり、この私達の日常活動の状況を発表したものであるが、今後の安全衛生活動に少しでも役立つものであれば幸いである。

新たな「地域との協調」をめざして

—アンケート結果による考察—

上田・和田担当区事務所 菊池博輝
山本文男

はじめに

国有林野事業の使命のひとつ「地域振興への寄与」については、経営改善の中でもとくに重要な項目となっている。

かつて、農山村と国有林は、密接な関係にあり、国有林野事業が地域の振興に貢献した実績は多くの農山村に残っている。

しかし、かつて農山村の住民として、国有林に就労の場を求め、また薪炭材等林産物の供給を受け